

生きる力の育成 ～生徒一人一人を生かす学習指導を通して～

I 主題設定の理由

平成24年度から完全実施の学習指導要領が告示され、昨年度より道徳や理科・数学に関しては先行実施されている。「改訂の概要」は、「知識基盤社会」の時代において「生きる力」の育成がますます重要になるとし、そのために「知識・技能の修得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること」が方針として示された。

このことを踏まえて、本校の学校課題を振り返ったとき、「生きる力」、特に「確かな学力」の定着に関して、各教科における知識や技能の修得について重視した上で、それらの知識や技能を生徒一人一人が自らの学びに即して活用を図る学習活動が展開される必要があると考え、一昨年度より学習活動を通して生徒に「確かな学力」をはぐくむ指導の在り方について共通理解を図るとともに、授業実践を行ってきた。

本年度は過去二年間の研究の成果を踏まえて、さらに深化・発展を図りたい。

II 研究の具体的内容と方法

1 NRT検査による生徒の実態把握

2 「確かな学力」をはぐくむための授業実践による研究

「全ての教育課程において、言語活動を充実させ、授業の中で意図的に考えを表す場面を設定すれば表現力が育成されるだろう。」と考え、各教科で「伝える力」を育成するために、表現活動を取り入れる工夫をした研究授業を行った。

1 学期	小宮山茂樹教諭（1年 保健体育）
	古屋友香教諭（1年 英語）
	澤登正仁教諭（3年 社会）
	桐原誠之教諭（3年 理科）
2 学期	鮎澤智美教諭（1年 国語）

平井眞知子教諭（3年 美術）

小串吾郎教諭（2年 数学）

3 「生きる力」を育成するための個々の生徒理解の促進

教育相談や特別支援の在り方を通して生徒理解を深めた。

III 成果と課題

1 成果

- ・一人一実践を通して、他の教科ではどのような表情で生徒たちが学んでいるのか見ることができた。様々な側面から生徒の活動を見ることができ、生徒理解を深めることができた。
- ・教科の内容については難しい部分もあるが、思考力、表現力を共通の観点として授業を行ったので研究が深まった。また、「伝え合う」というテーマに沿ってそれぞれの教科で工夫が見られ、刺激を受けた。
- ・生徒にとって、物事の道筋を立てて考え、言葉にすることがいかに難しいかがわかった。教師側が常に言わせたり、書かせたりと仕組む心がけの必要性を感じた。
- ・特別支援の生徒についての共通理解が図れた。また、特別支援教育は特別支援学級の生徒だけのことではないということも理解できた。

2 課題

- ・一人一実践の授業実践を中心に研究を行ってきたが、このような方法では研究を深めていくことは難しい。講師を招いての学習会等を行い理論研究も進めていく必要がある。
- ・道徳や学級活動の授業研究も取り入れていく必要がある。
- ・スクールカウンセラーの勤務時間との関係もありなかなか難しいが、生徒理解に関する研修等も計画していきたい。

（研究主任 桐原誠之）